高齢化社会にむけて 人にやさしく安全な踏切に。

踏切

未来新聞

Railroad Crossing the Future

発行 令和元年8月26日
霞ヶ丘小学校
松元俊貴

踏切事故はこの30年間に全国で1/4まで減少した。しかし、最近高齢者の事故は増えつつある。そこで、山陽電鉄に取材をして、これまでの踏切事故対策と現在行っている高齢者の安全対策についてお話を伺った。そして、未来の踏切についてぼくなりの考えをまとめた。

高齢者によるトラブルが増加

電動車イスに乗っている人が操作を誤り、脱輪したり、手押し車の車輪がみぞにはまり、立ち往生になっている人が多いという新聞の記事があった。山陽電鉄でも事故には至らないが、高齢者が踏切内に閉じこめられ、非常ボタンが押されたり、踏切待ちの人に救助されるなどのケースが多数発生しているとのことであった。

現在の対策

これまでは障害物検知装置、オーバーハング型警報装置などを設置してきた。しかし、高齢者の安全対策としては十分ではないので現在は高性能な機械を導入している。

3Dレーザーで踏切内の異常を早く列車に伝達!

従来の踏切支障報知装置よりも小さい物を検知できるので、車だけでなく踏切内にとり残された人をとり残された人を検知!

これは360度どこからでも見える警報灯だ。利用者により危険に気付いてもらえるようにしている。

非常ボタン設置場所の工夫。

①踏切内にとり残された人が自分でおせるように、踏切内に設置している。(上下線の間に)

②視線の低い高齢者が非常ボタンをすぐおせるよう普通よりも低い位置に設置している。

北岡さん、小田さんありがとうございました。

全方向踏切警報灯で見えやすく。

マナー向上の重要性

踏切事故をなくす一つの手は利用者がマナーを守ることだ。マナーとは、「警報音が鳴ったら渡らない」「列車を急停車させるような行為はしない」などである。もし事故がおこらなくても、急停車すると列車が遅れ、利用者に迷惑をかけてしまうことになる。実際に山陽電車の踏切では警報音がなっているのに渡ろうとして閉じこめられる高齢者も多いそうだ。そこで山陽電車では高齢者の閉じこめなどの多い踏切の付近や地域で向上の啓発活動を行っている。マナー向上の啓発活動を行って無理な横断をへらすのが大切だ。

ぼくが考える未来の踏切

ぼくが考える未来の踏切は2つある。1つ目は、**踏切内にムービングウォークをつけること**だ。ムービングウォークだと一度乗ったら歩くのが遅い人でも閉じこめられることなく向こう側まで安全に横断できる。2つ目は踏切が開いているときだけ**レールの横のみぞを埋める装置を作ること**だ。そうすれば高齢者が踏切内でにげたり車いすがみぞにはまって動けなくなることがなくなると思う。

編集後記

踏切をなくせば踏切事故はなくなるが利用者は不便なこともあり踏切と共存していくしかない。利用者が踏切の危険や安全への取り組みを知り、マナーを守ることが何より大切だと思った。